

<農業生産法人、集落営農組織の育成に取り組む事例>

○集落営農を基盤とした持続的な農業生産活動の展開

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	富山県高岡市福岡町沢川 たかおかしふくおかまちそうごう			
協定面積 23.5ha	田（100%）	畑	草地	採草放牧地
	水稻			
交付金額 448万円	個人配分 0%			
	共同取組活動 （100%）	農用地の維持管理費		34%
		水路、農道等の維持管理費		29%
		農業生産活動の体制整備に向けた活動経費		22%
		交付金の積立・繰越		12%
	その他		3%	
協定参加者	農業者 10人、集落営農 1			開始：平成13年度

2. 取組に至る経緯

当集落は、高岡市北西部の石川県境（宝達志水町に隣接）に位置し、市内において最も標高が高いところ（標高約350m）に存在する。公共施設や商業施設等へのアクセスの面で平野部に比べ利便性に劣ること、また、農林産物の価格低下に伴う農林業経営の悪化等から、人口が著しく減少しており、農作業従事者の高齢化、担い手不足といった問題が深刻化している。その為、集落全体で共通認識を持ち、耕作放棄地の発生抑止に努めるとともに、一体となって、農地の多面的機能の維持・保全活動を行うため、平成13年度より本制度への取組を開始している。

3. 取組の内容

平成15年3月に沢川営農組合を設立。沢川集落内にある農地の大部分を集約化し、一元的な管理を行っている。（沢川集落の協定農用地面積23.5ha中、18.9haについて営農組合が管理。）第3期対策では、体制整備単価要件としてC要件（集团的サポート型）を選択。協定参加者が継続困難な農用地において、営農組合がサポートする体制を構築した。

また、国の補助事業を活用し、総延長約3kmに及ぶ電気柵を整備。鳥獣被害抑止に向けた取組み活動も積極的に行っている。



【一面に広がる棚田の風景】



【集落営農による稲刈り作業】

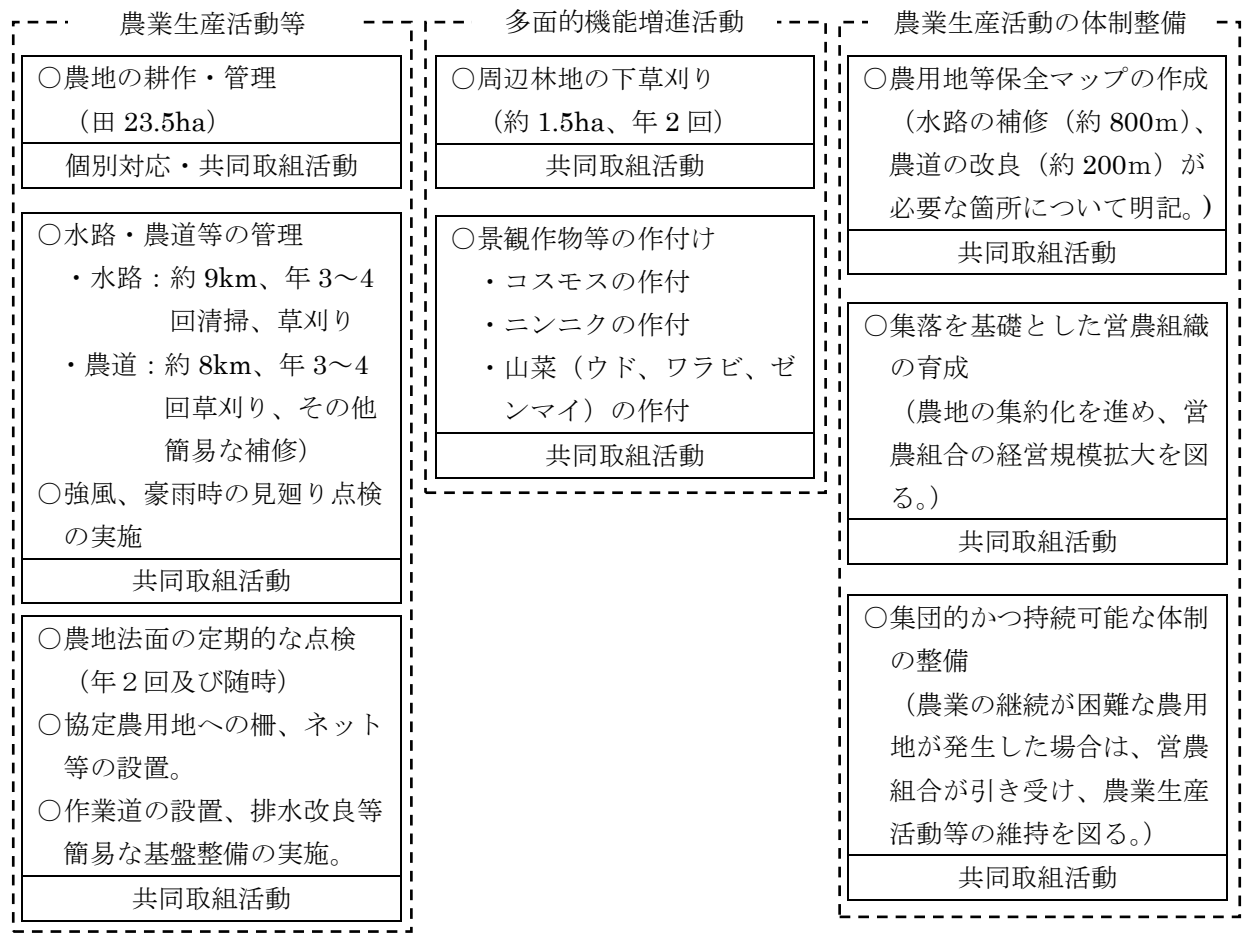
〔集落の将来像〕

- 「沢川集落は、人と自然に優しく、住み良い村づくりを目指して、手と手を・・・」
 - ・集積対象者を核とした農業生産活動等の体制整備
 - ・地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制整備

〔将来像を実現するための活動目標〕

- 営農組合を中心に、協定参加者が一致団結して共同取組活動を行うことで、農地の保全と集落の活性化を図る。

〔活動内容〕



集落外との連携

- 毎年、栃丘集落内で開催される竹の子まつり(5月)、五位山地域秋の収穫祭(11月)において地場農産物を直売する等、集落内外で、安心・安全な農産物の提供を行っている。

4. 今後の課題等

将来にわたって持続的な農業生産活動を行っていくために、協定参加者の意思統一を徹底し、共同取組み活動を強化していくことが重要である。

一方、集落内の農業従事者の高齢化は年々進んでおり、営農組合の存続にあたっては、後継者となる人材の発掘・育成が当面の大きな課題となっている。

〔第 2 期対策の主な成果〕

- 営農組合への農地集約化 協定農用地面積に占める営農組合管理地割合の増加。
(2期対策開始時：約66%、3期対策開始時：約80%)
- 都市住民との交流による地域活性化 栃丘竹の子まつり、五位山地域秋の収穫祭における交流。
(参加者約1,000名と定期的に交流活動を行う。)